

【講演 5】房総の曽利式系土器 —加曽利 E 3 式に伴う斜行文・重弧文土器を中心に—

大内千年

はじめに

房総の曽利式系土器は、頸部がくびれ、口辺部と体部に沈線による文様が展開する類の土器が主体となるが、演者はこれを、「房総の曽利式系斜行文・重弧文土器とその類例」と呼んでいる。房総においては、この類の土器が曽利式系土器として捉えられ、研究の俎上に載せられてきた。

1 曽利式と房総の曽利式系土器について

(1) 分布の中心域外で出土する曽利式系土器について

曽利式の概要について、櫛原（2021）の類型分類を用いて説明した。分布の中心域外への曽利式の影響については、谷口（2002）が曽利式情報の関東地方で受容について優れた見取り図を示したことを紹介した。

(2) 房総の曽利式系土器

房総の曽利式系土器の研究史を略述した。まずは小川（1980）の土器の変遷観等にふれた。埼玉県埋蔵文化財調査事業団の研究紀要（いわゆる「埼玉編年」）は千葉県では報告書の記載等に大きな影響を与えたが、房総の曽利式系土器の位置付け（金子 1982）は踏襲されず、1990 年代まで、呼称や時間的位置づけが不安定であった。2000 年代以降、東日本各地で曽利式系土器の論考が発表されるが、房総については戸田（2006）で大きく取り上げられた。大内（2009）では悉皆的な集成を実施し、大内（2012）ではその成果を受け、時間的な位置づけの整理を行った。2021 年の山梨県考古学協会のシンポジウムでは、小林、箱石（2021）により、再び房総の曽利式系土器の集成が図られた。

2 房総における曽利式系「斜行文・重弧文土器とその類例」

(1) 集成状況と分布

大内（2009）の成果より、房総の曽利式系斜行文・重弧文土器とその類例（以下、斜行文・重弧文土器とする）を集成した状況と、分布について説明した。

(2) 出土状況

続いて、遺構出土事例で、伴出する土器を説明した。また、同時性を想定できる事例として、土器片囲い炉の事例を示した。出土状況からは、加曽利 E 3 式前半との強い関係（同時性）、加曽利 E 3 式後半（加曽利 E III 式古段階）との排他的関係、口縁部断面形態の明瞭な時間的変遷の否定、といった見通しが得られた。

(3) 時間的な位置づけ

大内（2012）の成果より、斜行文・重弧文土器について時間軸に沿って説明した。房総においては、明瞭に加曽利 E 2 式期の特徴を持つ土器以外、大多数の斜行文・重弧文土器は加曽利 E 3 式前半期に位置づけられる。こうした位置づけについて、あらためて 2009 年の集成時以降の出土事例から検証した。

(4) 組成について

房総において、斜行文・重弧文土器は非在地系の土器で、在地の加曽利 E 3 式前半に伴う客体的な存在だが、量的にどの程度組成するのか、土器片囲い炉での事例と、中峠遺跡 6 次第 2 号住居址の事例（下蔵

考古学研究会 2014) から検討した。結果、加曽利 E 3 式前半には、5 % 程度の斜行文・重弧文土器が伴う可能性があることを示した。

(5) 胎土分析の結果について

建石 (2012) の成果として、房総の縄紋中期では、在地系と非在地系の土器が、同じ遺跡内かその近辺で生産された可能性が示唆されることを紹介した。組成上大きな割合を占めることも考え合わせ、斜行文・重弧文土器は搬入品ではなく、同一の制作者が加曽利 E 式と曽利式系土器を作り分けていた可能性がある。

3 房総における曽利式系「斜行文・重弧文土器とその類例」の意義

< 南西関東よりも、盛行する時期が確実に遅れる。同様の顔付きをした土器が、時間的な同時性を示さない可能性がある。 > 櫛原 (2019) の成果に基づき、多摩地域の曽利式系土器との比較をおこない、土器情報の伝播にある程度の時間がかかった可能性を示した。また、土器情報が「型式単位」で伝播するのではなく、情報の取捨選択がなされることを述べた。

< 房総においては「加曽利 E 3 式前半」の枠組みを保証するもの。加曽利 E 3 式前半と「加曽利 E III 式」の画期を確実にするもの。 > 先史土器図譜 (山内 1940 → 1967) に示された加曽利 E 3 式は、斜行文・重弧文土器を伴う前半 (磨消縄文を有するキャリパー形の土器) と、伴わない後半 (非キャリパー形の土器・加曽利 E III 式古段階) に区分されたと考えた。加曽利 E 3 式後半のキャリパー形の土器の様相については、西川 (2019) で「加曽利 E 3 (新) 段階」として整理された、柏市小山台遺跡の斜行文・重弧文土器を含まない遺構出土事例が示唆的と考える。

< 加曽利 E 3 式前半の細別の可能性について (市原市中潤ヶ広遺跡での分析事例から) > 大内 (2006) において、加曽利 E 3 式前半が 2 時期に区分できる可能性を示したが、新地平編年 12 a ~ 12 c 期の区分をそのまま房総に適用するのは困難と考える。曽利式系斜行文・重弧文土器については、型式学的要素が少なく系譜的に土器の変化を追うことが困難なため、加曽利 E 3 式前半の細別に資するような土器の変遷を想定することは、時期尚早であると結論付けた。

参考・引用文献

- 大内千年 2006 「第6章第1節縄文時代」『潤井戸地区埋蔵文化財調査報告書Ⅱー市原市中潤ヶ広遺跡 (上層) ー』 千葉県教育振興財団
- 大内千年 2008 「千葉県における小規模集落の分析ー中期後葉土器編年に関する補足・市原市中潤ヶ広遺跡の事例を手がかりにー」『縄文研究の新地平 (続) ~ 堅穴住居・集落調査のリサーチデザイン ~』 六一書房
- 大内千年 2009 「中期の非在地系土器ー房総半島におけるいわゆる曽利式系土器についてー」『研究紀要』26 千葉県教育振興財団文化財センター
- 大内千年 2012 「房総半島における非在地系土器についてー縄紋時代中期後葉の曽利式系土器のあり方ー」『国立歴史民俗博物館研究報告』第167集 国立歴史民俗博物館
- 小川和博 1980 「千葉県成田市宝田山ノ越貝塚研究素描」『奈和』第18号 奈和同人
- 金子直行 1982 「第6節 X I 期、X II 期」『研究紀要1982』(財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 櫛原功一 2019 「多摩地域の曽利式 (系) 土器」『考古学の地平Ⅱー縄文時代中期の土器論と生業研究の新視点ー』 六一書房
- 櫛原功一 2021 「曽利式土器と曽利式系土器」『曽利式土器とその周辺資料集』 山梨県考古学協会
- 小林美貴・箱石幸祐 2021 「千葉県における曽利式 (系) 土器集成」『曽利式土器とその周辺』 山梨県考古学協会
- 下総考古学研究会 2014 「千葉県松戸市中峠遺跡第6次調査報告」『下総考古学』23
- 建石 徹 2009 「千葉県内出土縄文土器の胎土分析ー早期から中期の土器を中心としてー」『研究紀要』26 千葉県教育振興財団文化財センター
- 谷口康浩 2002 「縄文土器型式情報の伝達と変形ー関東地方に分布する曽利式土器を例にー」『土器から探る縄文社会2002 年度研究集会資料集』 山梨県考古学協会
- 戸田哲也 2006 「曽利Ⅲ式土器の受容と変容」『ムラと地域の考古学』 同成社
- 西川博孝 2019 「第5章第2節縄文土器」『柏北部東地区埋蔵文化財調査報告書 柏市小山台遺跡 B 区縄文時代以降編』 千葉県教育振興財団
- 山内清男 1940 → 1976 『日本先史土器図譜』再版・合冊 先史考古学会

房総の曾利式系土器

－加曾利 E 3 式に伴う斜行文・重弧文土器を中心に－

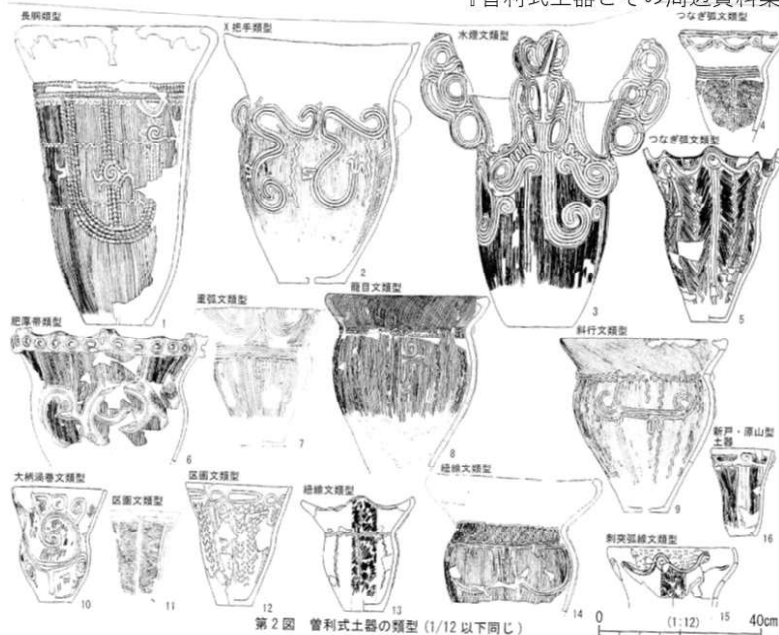


1 KATUZAKA TYPE, subgroup "c" (Sanzhane site) 2 KA

千葉県教育庁文化財課 大内千年

曾利式土器の類型

榎原功一2021「曾利式土器と曾利式系土器」
『曾利式土器とその周辺資料集』山梨県考古学協会

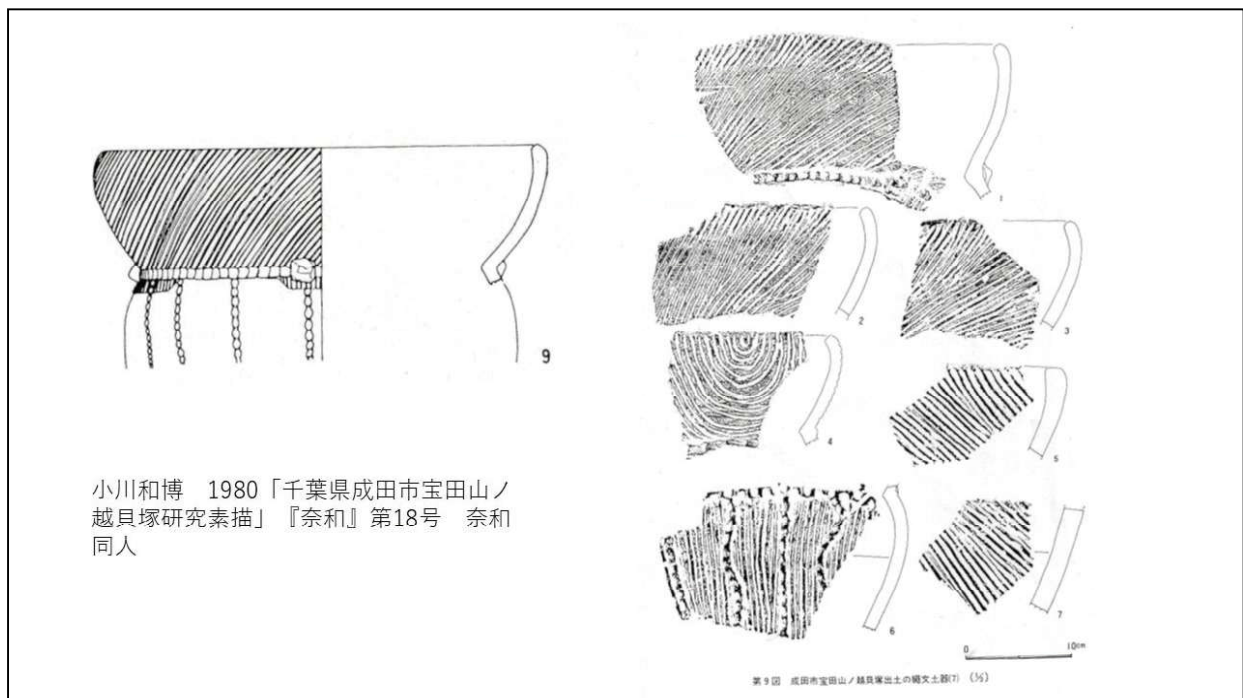
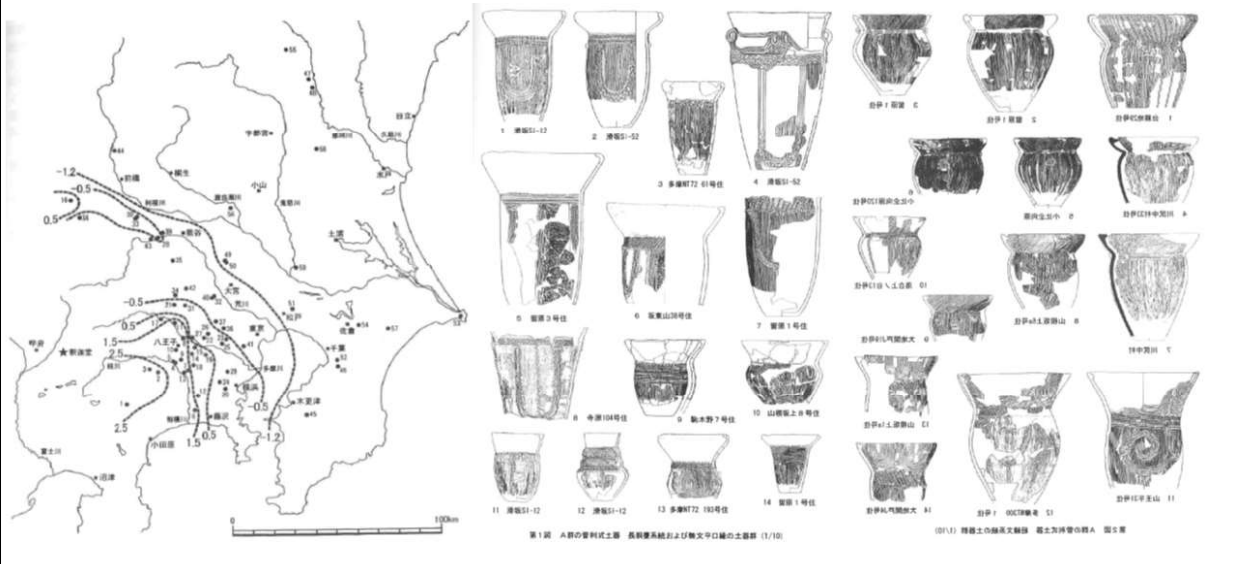


第2図 曾利式土器の類型 (1/12 以下同じ)

大内①

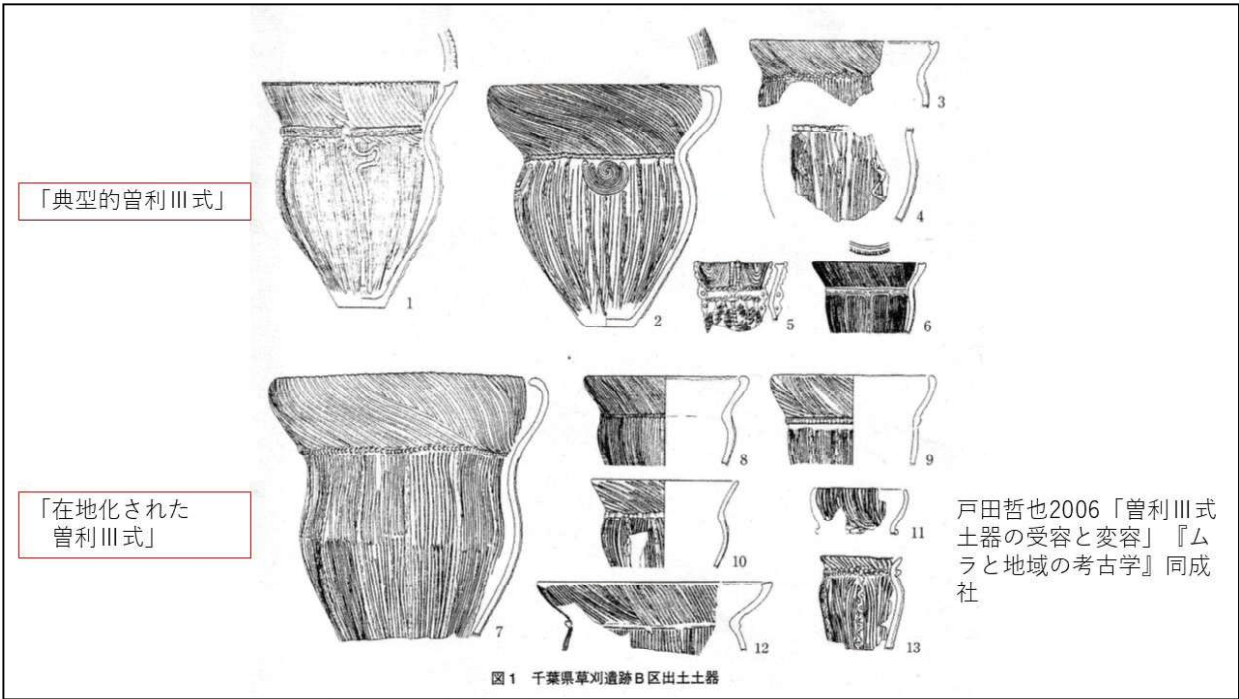
遠隔地出土の曽利式にかかる谷口（2002）の見取り図

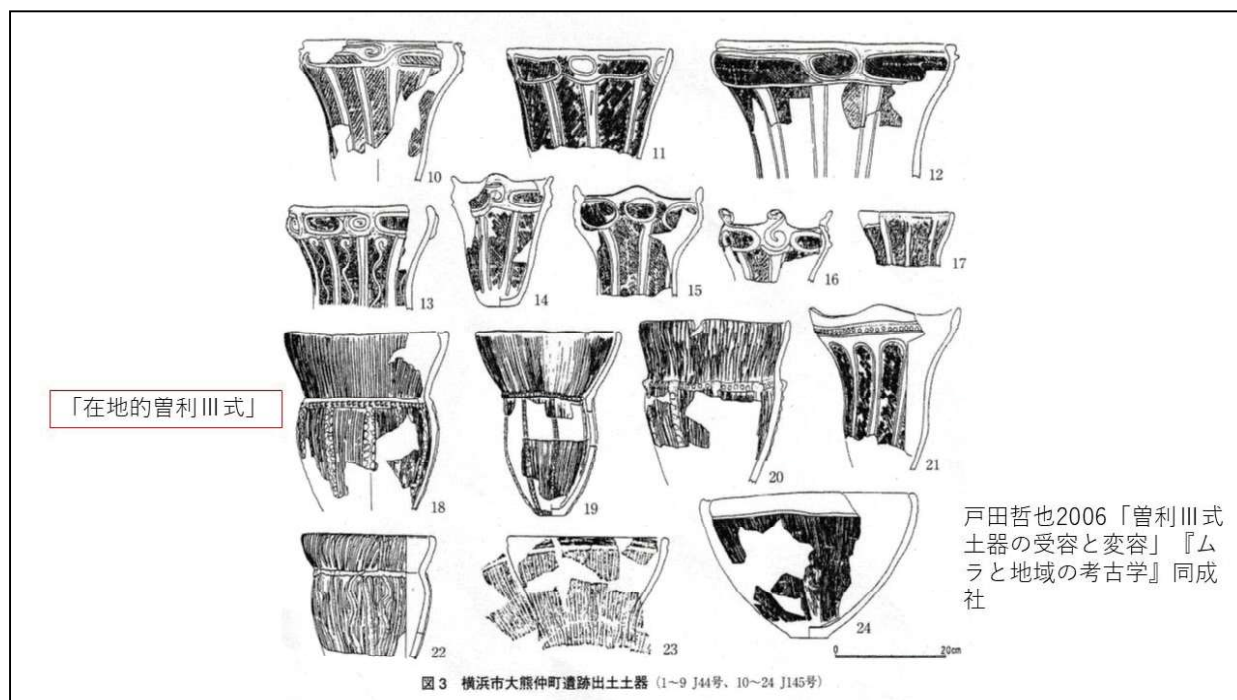
谷口康浩2002「縄文土器型式情報の伝達と変形―関東地方に分布する曾利式土器を例に一」
『土器から探る縄文社会2002年度研究集会資料集』山梨県考古学協会

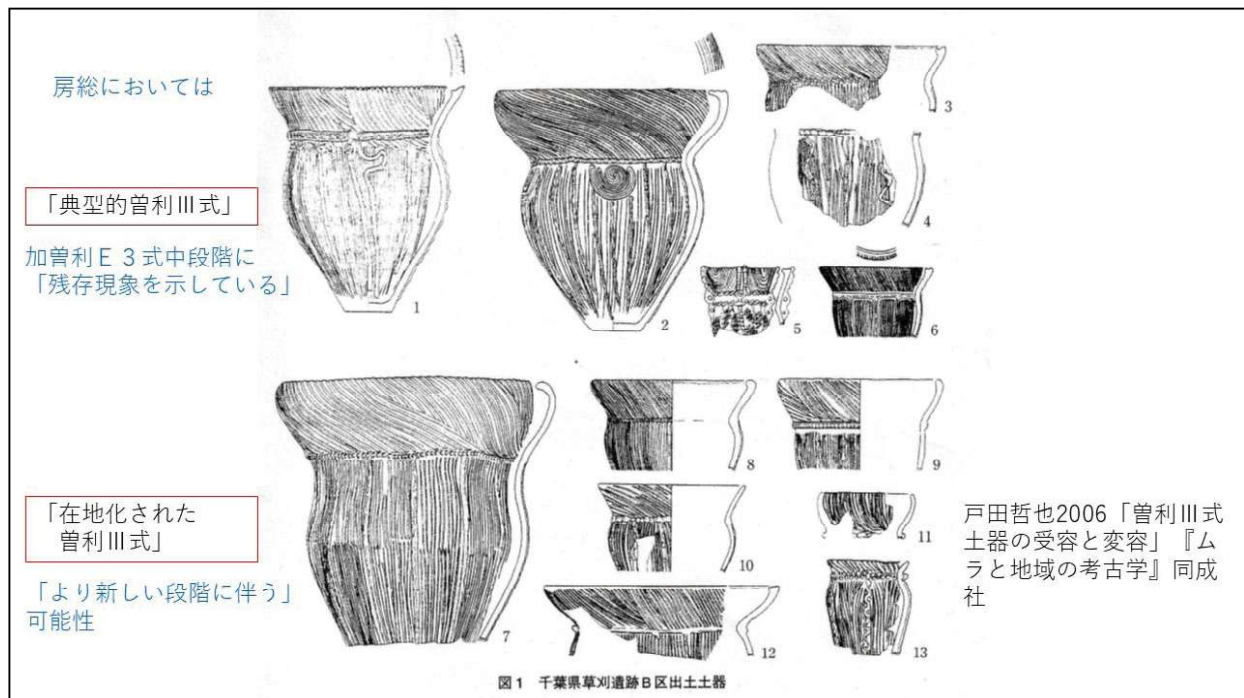


第1表 編年対応関係					
埼玉編年（谷井ほか 1982）		加納編年（加納 1989・1994）	新地平編年（黒尾和久による：小林ほか 2004）		
（型式）	（細別時期）		（細別時期）	（型式）	
加曾利 E I	IX a		9 c	加曾利 E 1	
			10 a		
	IX b		10 b		
	X		10 c		
加曾利 E II			11 a	加曾利 E 2	
	XI		11 b		
			11 c 1		
	XII a		11 c 2	加曾利 E 3	
			12 a		
	XII b		12 b		
加曾利 E III	XIII	加曾利 E III（古段階）	12 c	加曾利 E 4	
加曾利 E IV	XIV	加曾利 E III（新段階）	13 a		
		加曾利 E IV	13 b		

大内千年2008「千葉県における小規模集落の分析—中期後葉土器編年に関する補足・市原市中潤ヶ広遺跡の事例を手がかりに—」
『縄文研究の新地平（続）～竪穴住居・集落調査のサーチデザイン』六一書房







○大内千年 2009

「中期の非在地系土器－房総半島におけるいわゆる曾利式系土器について－」
『研究紀要』26 千葉県教育振興財団文化財センター

○大内千年 2012

「房総半島における非在地系土器について－縄紋時代中期後葉の曾利式系土器のあり方－」
『国立歴史民俗博物館研究報告』第167集

○小林美貴・箱石幸祐 2021

「千葉県における曾利式（系）土器集成」
『曾利式土器とその周辺』 山梨県考古学協会

2. 房総における曽利式系「斜行文・重弧文土器とその類例」

編年的枠組み（大内2009）

加曽利 E 1 式 ≡ 新地平編年 10 a ～ c 期

加曽利 E 2 式 ≡ 新地平編年 11 a ～ c 期

加曽利 E 3 式前半 ≡ 新地平編年 12 a ・ b 期

加曽利 E 3 式後半 ≡ 新地平編年 12 c 期

加曽利 E 4 式 ≡ 新地平編年 13 a 期



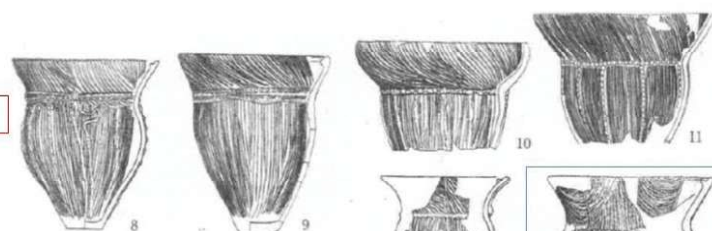
≡ 加納・加曽利 E III 式古段階



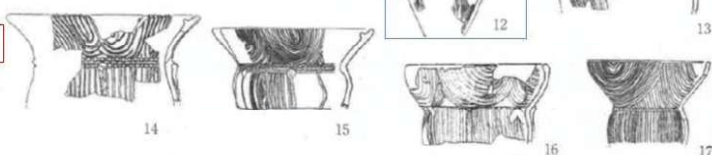
≡ 加納・加曽利 E III 式新段階・E IV 式

(1) 集成状況と分布

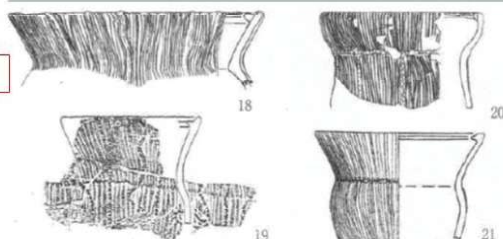
1 類 a 種（斜行文）



1 類 b 種（重弧文）



1 類 d 種（縦位沈線）



1 類 c 種
（矢羽根状沈線）



大内⑥

(1) 集成状況と分布

大内千年2009「中期の非在地系土器－房総半島におけるいわゆる
曽利式系土器について－」
『研究紀要 26』 財団法人千葉県教育振興財団文化財センター



(2) 出土状況

大内千年2009「中期の非在地系土器－房総半島におけるいわゆる
曽利式系土器について－」
『研究紀要 26』 財団法人千葉県教育振興財団文化財センター

「斜行文・重弧文とその類例」の出土状況

○遺構出土例を 3 4 3 件確認

○加曽利 E 3 式（前半）が伴った事例 1 0 9 件

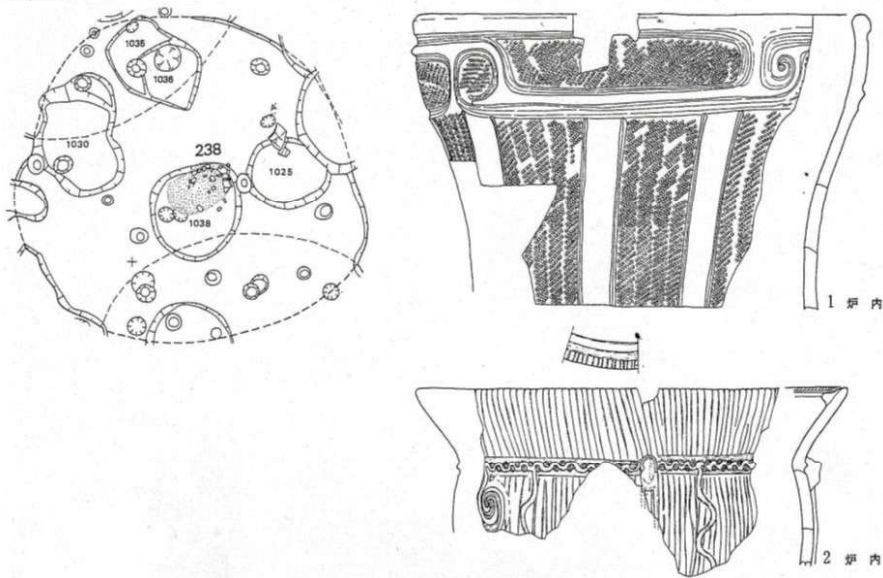
○加曽利 E 2 式が伴った事例 1 2 件

○加曽利 E 3 式（後半）が伴った事例 2 件

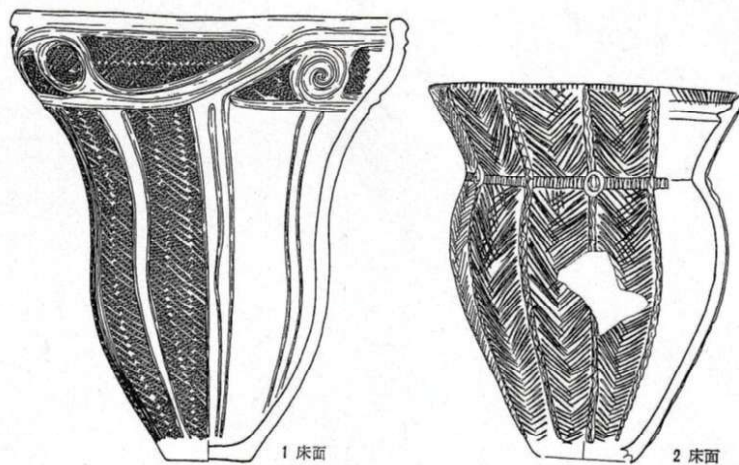
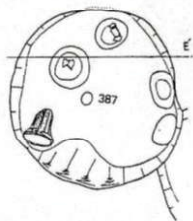
○加曽利 E 4 式が伴った事例 1 件

○連弧文系土器が伴った事例 3 0 件

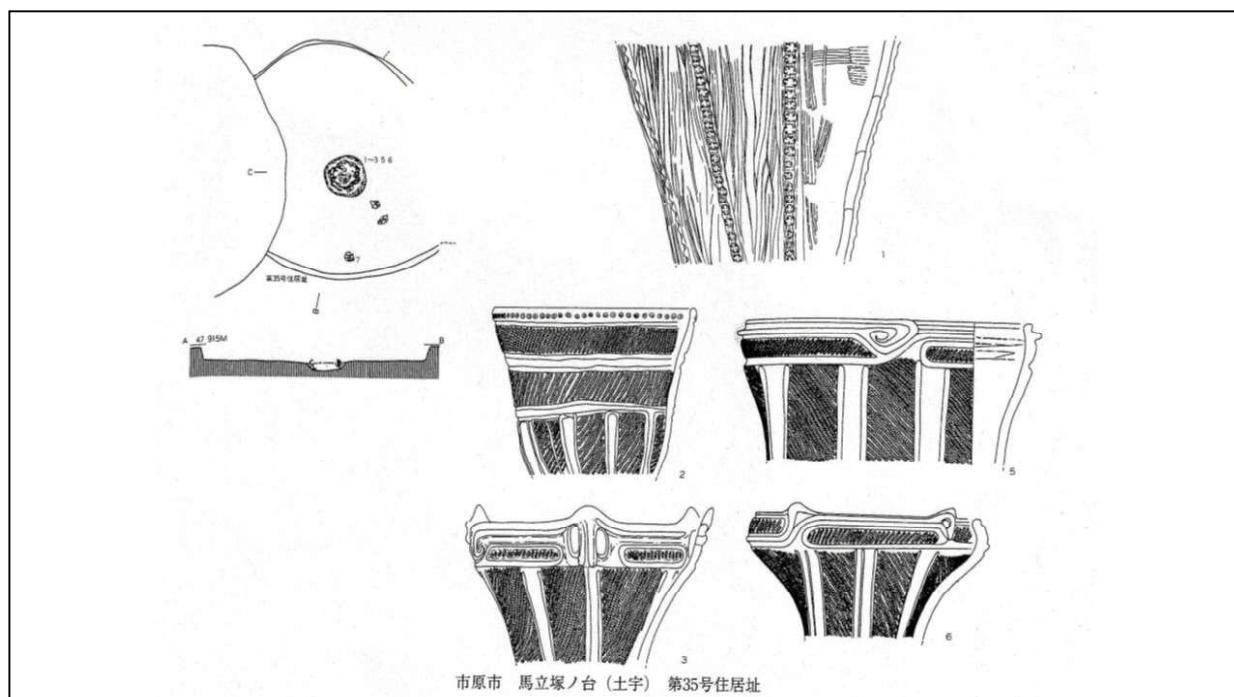
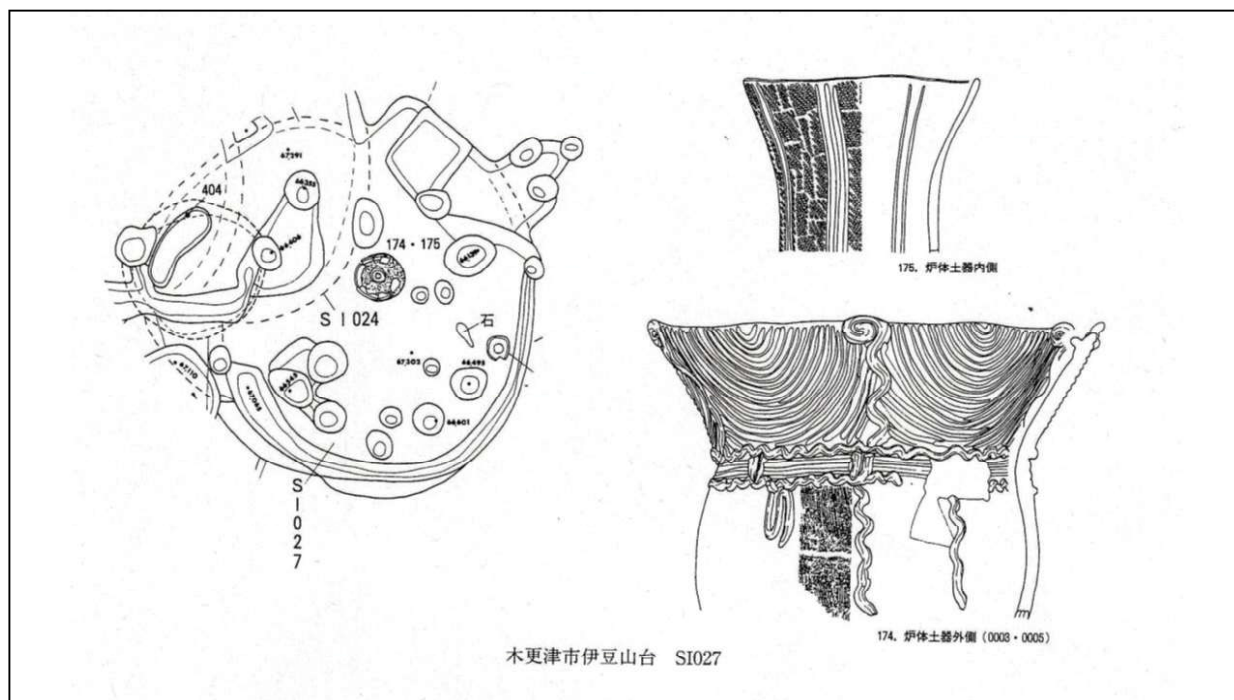
(2) 出土状況

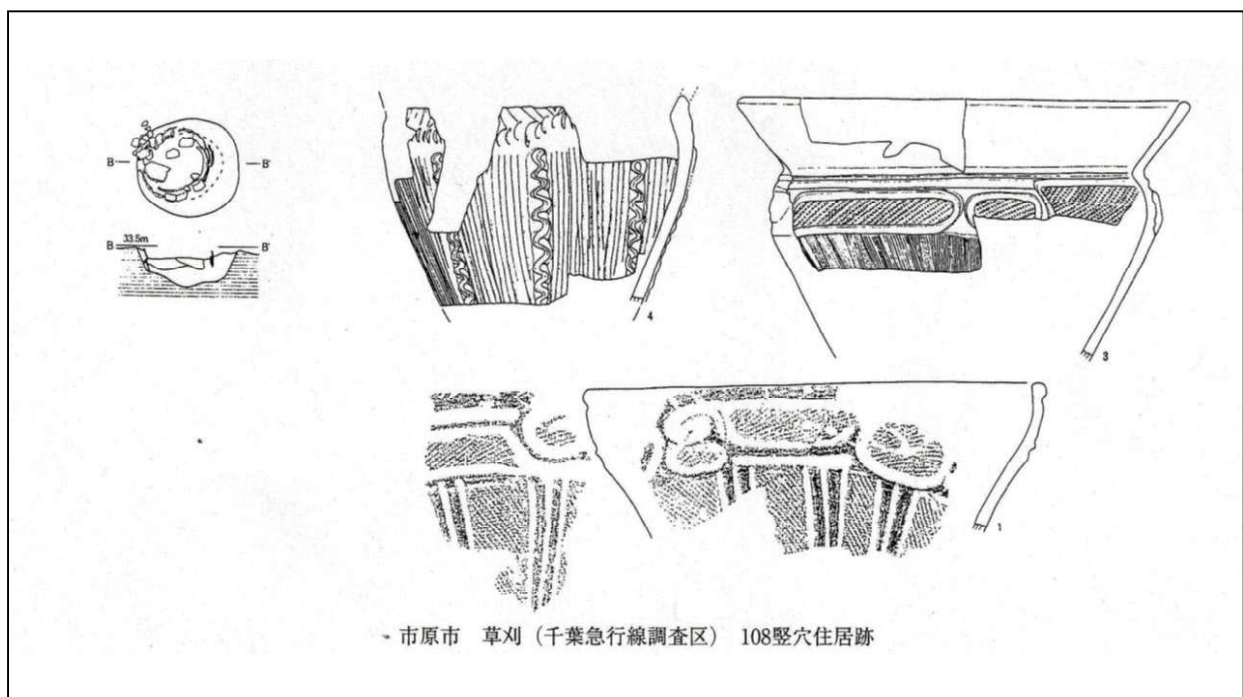


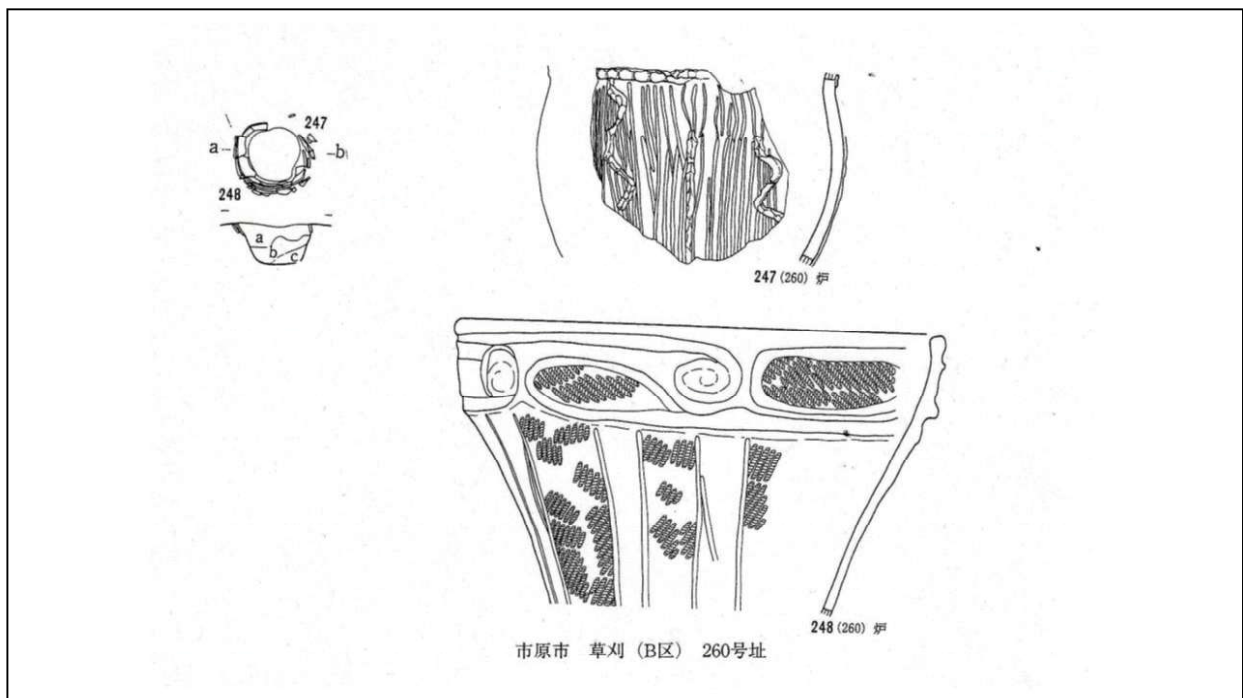
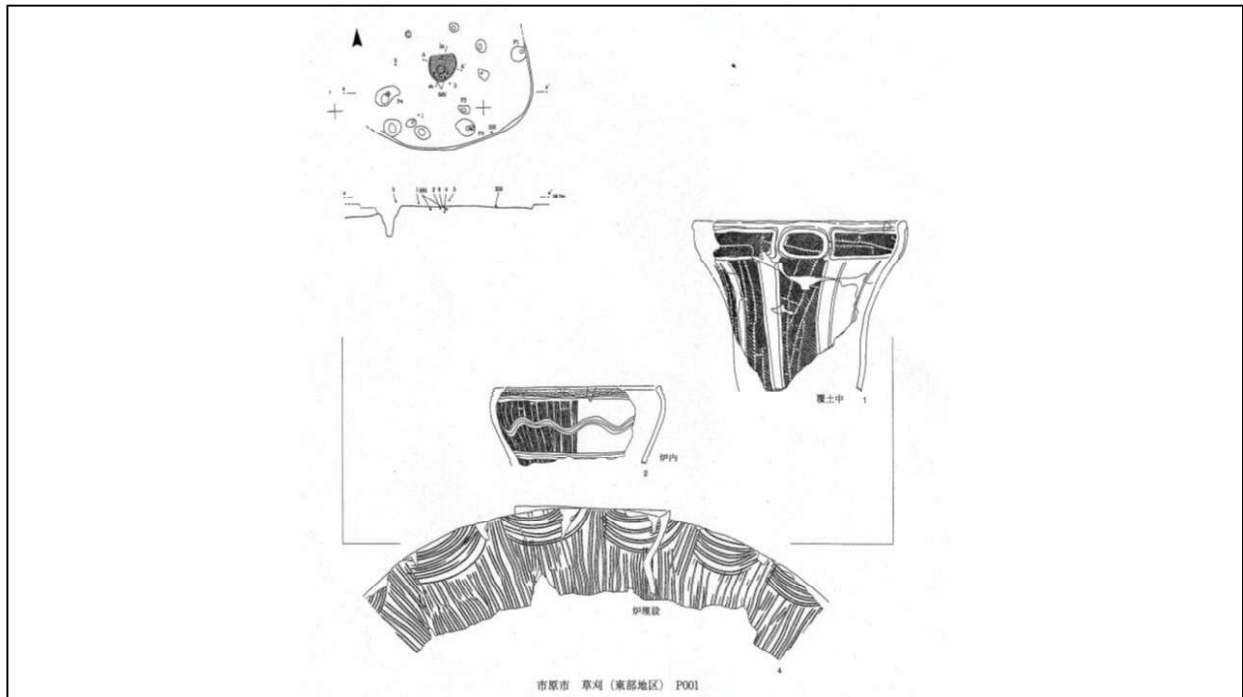
松戸市 子と清水貝塚 238号住居跡

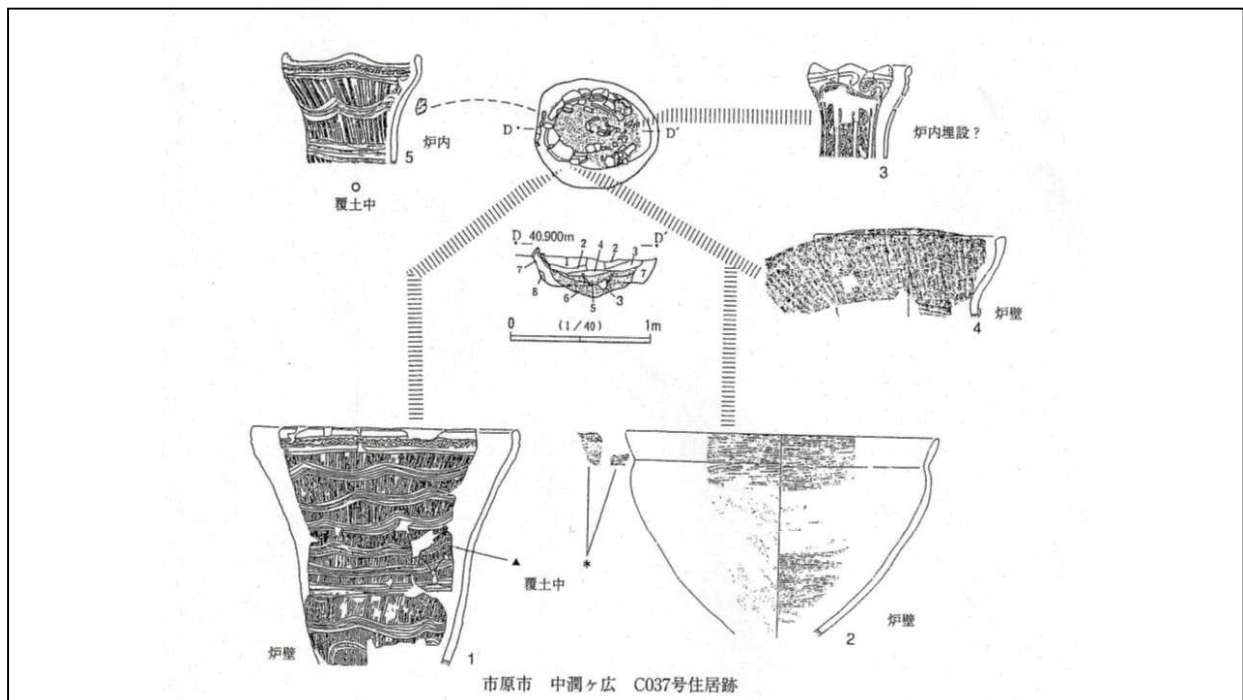


松戸市 子と清水貝塚 387号土坑









(3) 時間的な位置づけ

●加曾利 E 2 式以前の
曾利式系土器

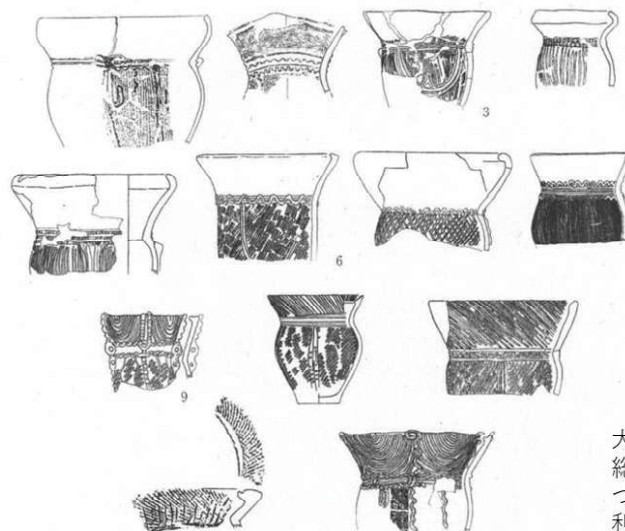
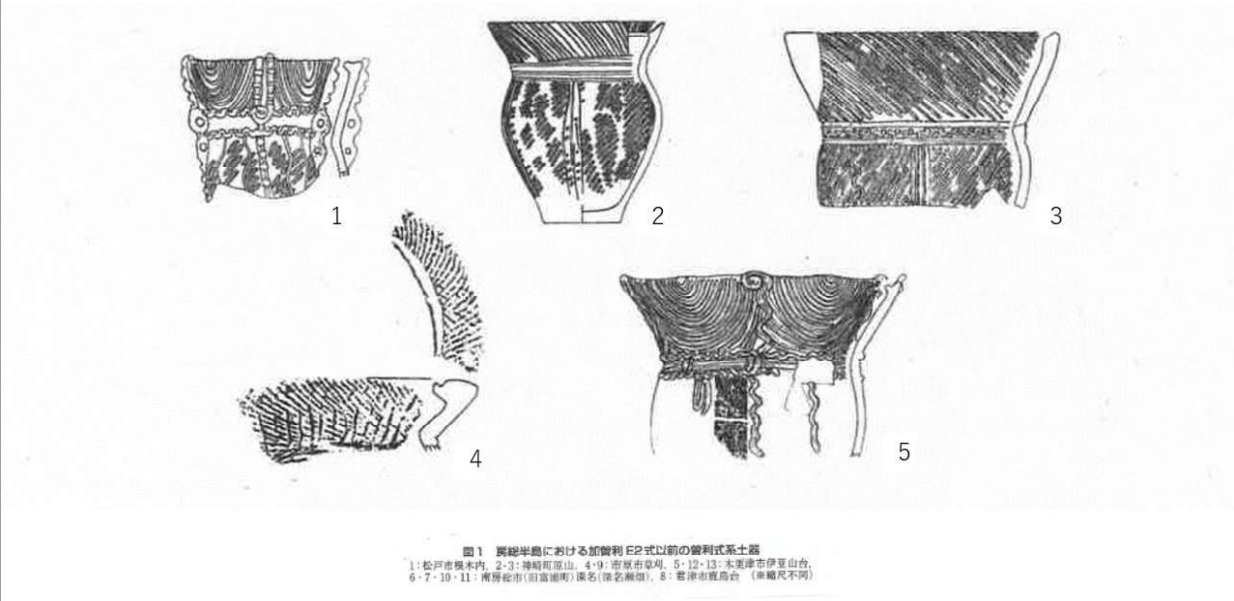


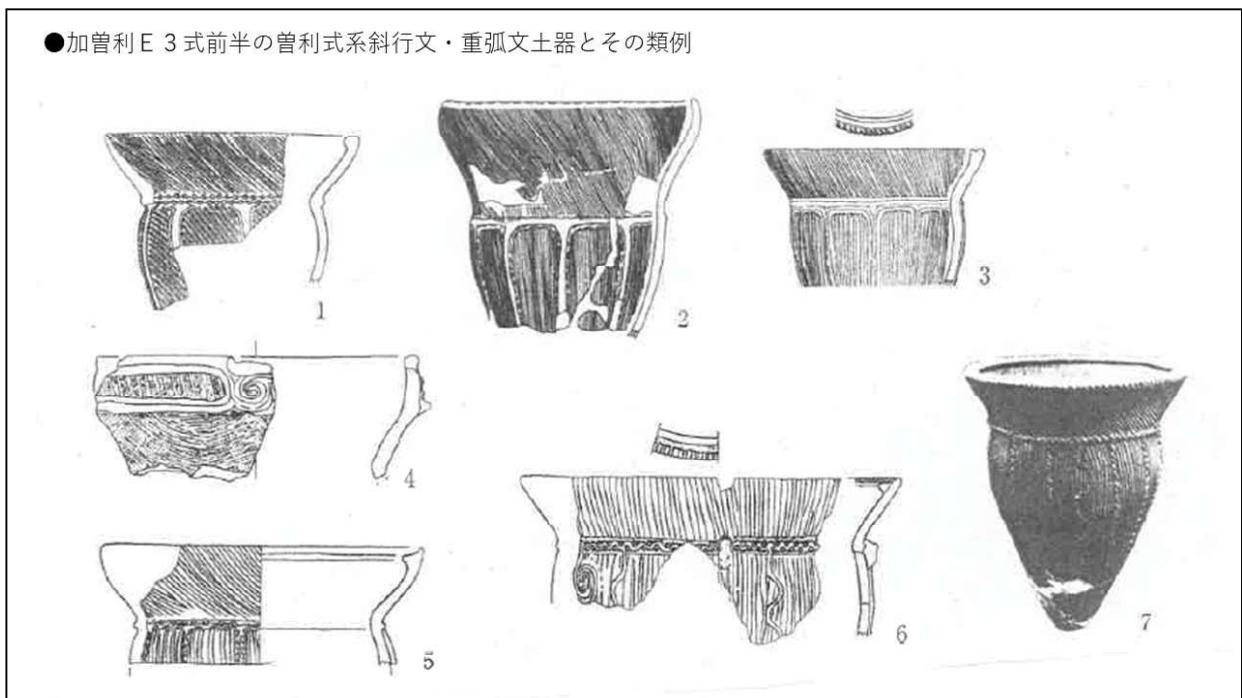
図1 房総半島における加曾利 E2 式以前の曾利式系土器
1: 松戸市根木内、2・3: 神崎町原山、4・9: 市原市竜川、5・12・13: 本美津市伊豆山台、
6・7・10・11: 南房総市(旧富津町)湊名(湊名瀬領)、8: 君津市鹿島台 (津城尺不同)

大内千年2012「[研究ノート]房
総半島における非在地系土器に
ついてー縄紋時代中期後葉の曾
利式系土器のあり方ー」
『国立歴史民俗博物館研究報告
第167集』国立歴史民俗博物館

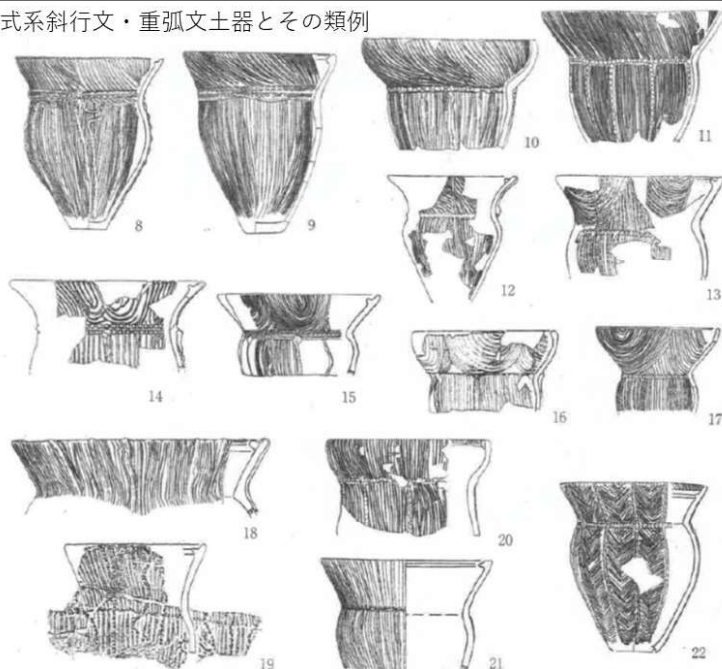
●加曾利 E 2 式期の曾利式系斜行文・重弧文土器とその類例



●加曾利 E 3 式前半の曾利式系斜行文・重弧文土器とその類例



●加曾利 E 3 式前半の曾利式系斜行文・重弧文土器とその類例



●加曾利 E 3 式前半の曾利式系土器

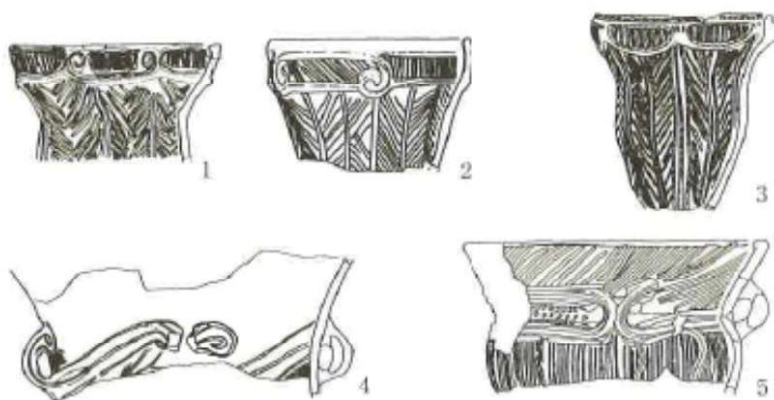
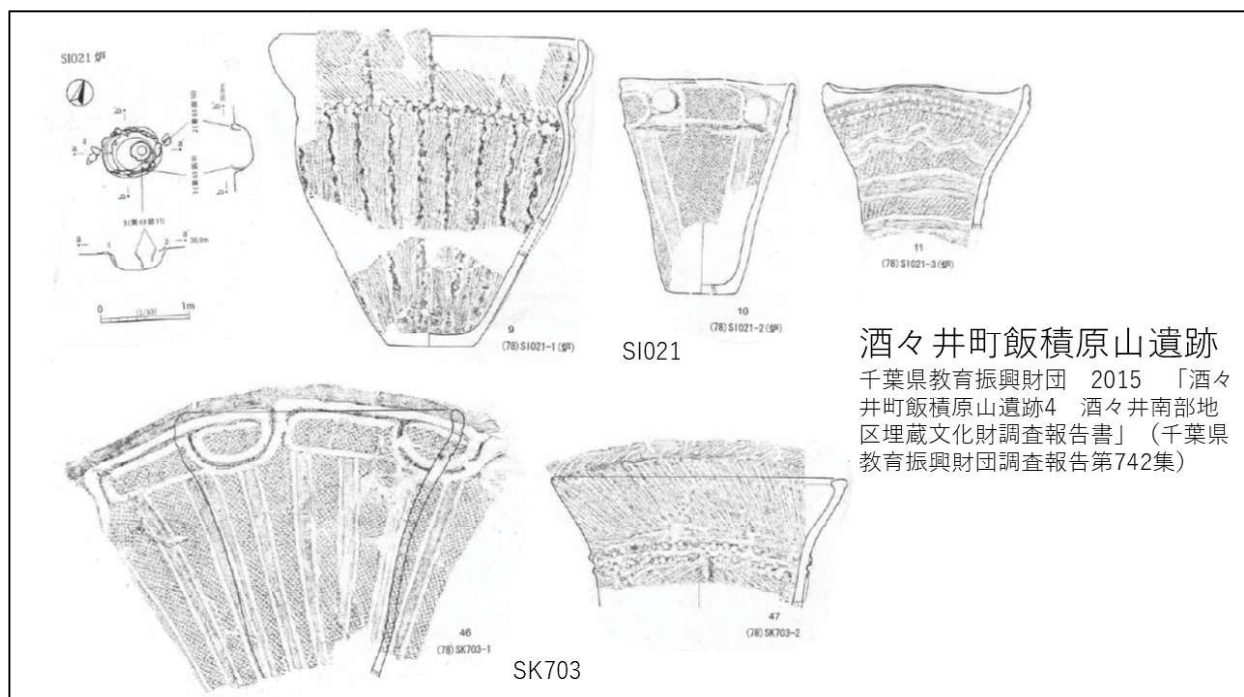
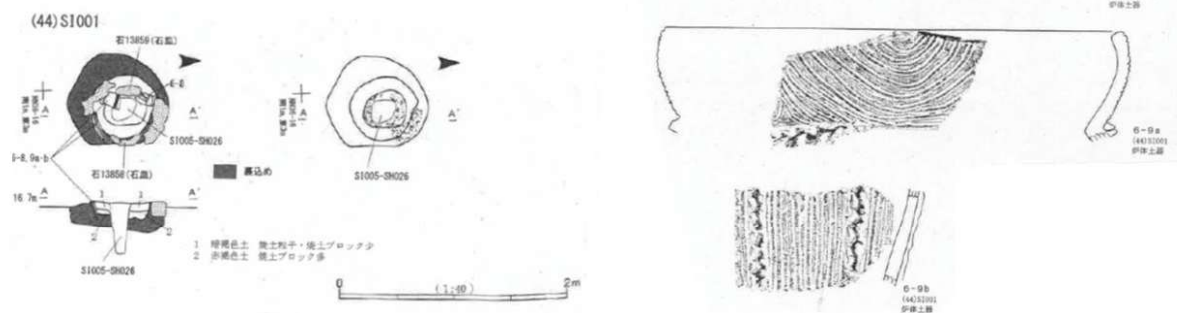


図3 房総半島における加曾利 E3 式前半の曾利式系土器(2)
1: 南房総市(旧富山町)京田, 2・4: 南房総市(旧富浦町)深名(深名瀬畑),
3: 木更津市台木 A, 5: 市原市草刈(H 区) (※縮尺不同)



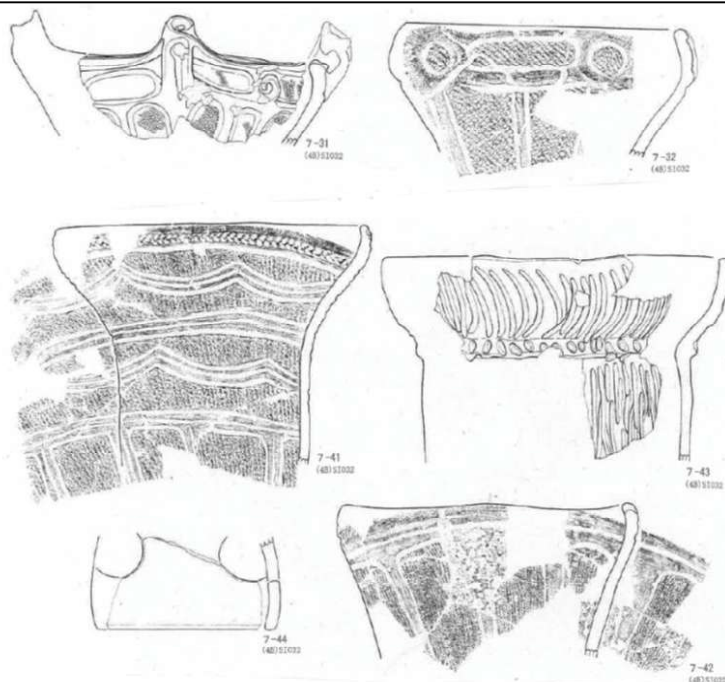
柏市小山台遺跡

千葉県教育振興財団 2019 「柏北部東地区
埋蔵文化財調査報告書 柏市小山台遺跡B区
縄文時代以降編」(千葉県教育振興財団調査
報告第775集)



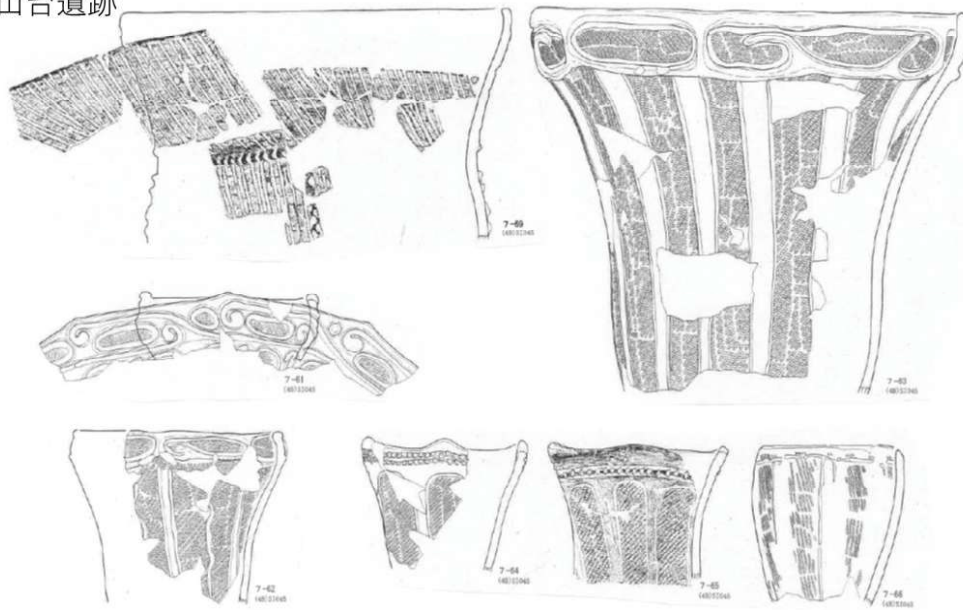
(44)SI001

柏市小山台遺跡



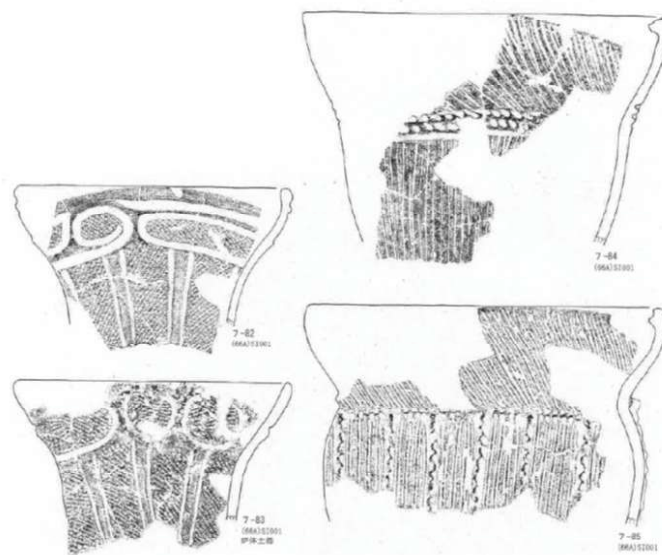
(4B)SI032

柏市小山台遺跡



(4B)SI045

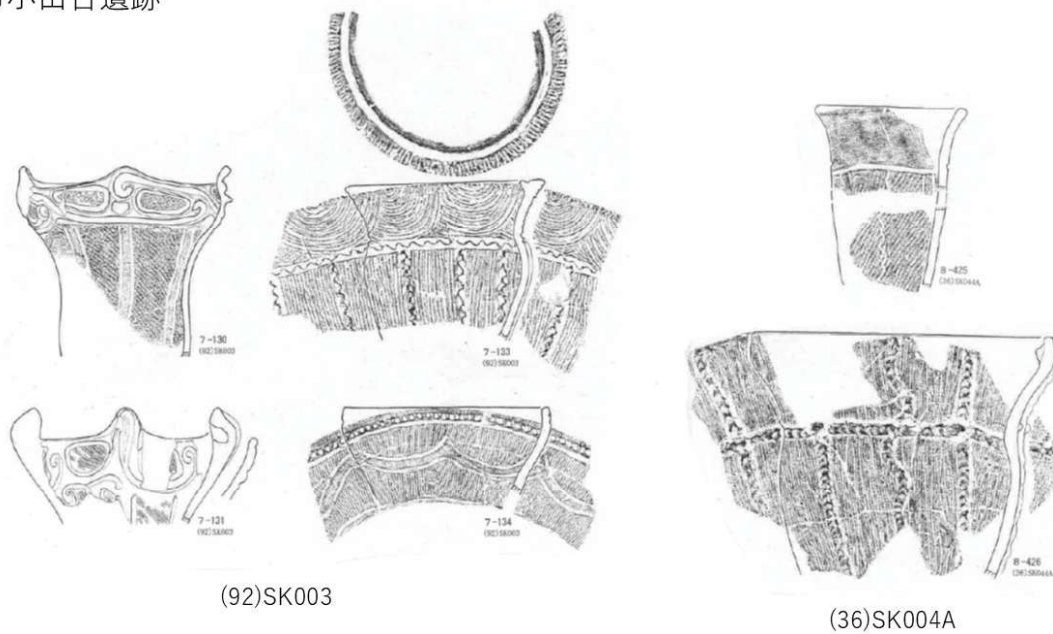
柏市小山台遺跡



(66A)SI001

大内⑰

柏市小山台遺跡

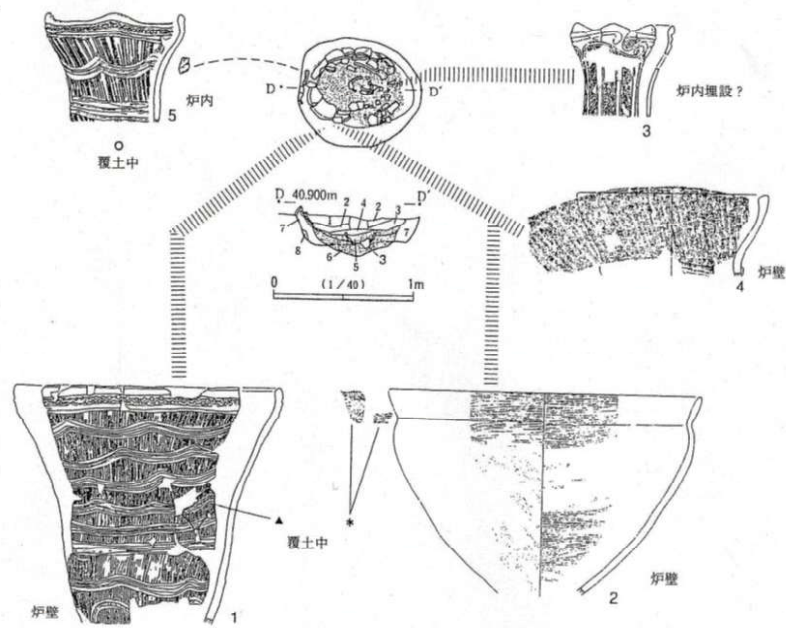


柏市小山台遺跡



(4) 組成について

・土器片囲い炉
からみた組成

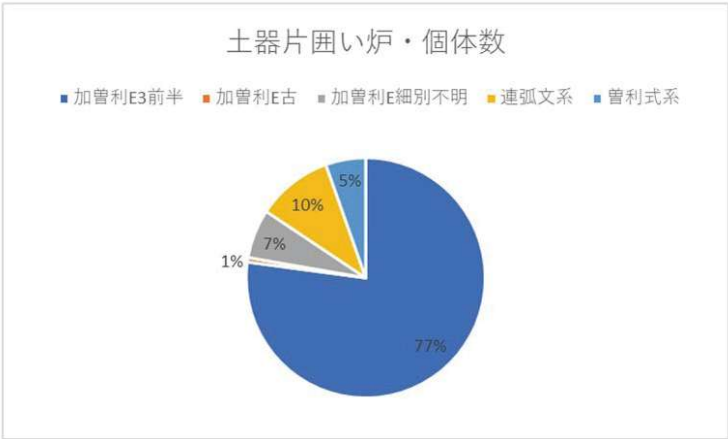


地域	市町村	遺跡名	遺構名-1	遺構名-2	加曾利E3 前半	加曾利E 古	加曾利E 細別不明	連弧文系	曾利式系	横位連弧 線文・意匠 充填系	浅鉢・その 他不明	備考
千葉県 東葛北部	柏市	小山台遺跡B区	(13)SI005	炉	4						1	
			(13)SI015	炉A	5							
			(98)SI001	炉	4							
			(23)SI003	炉B	2							1
			(48)SI006	炉	3							
			(44)SI001	炉	1				2			
千葉県 東葛南部	船橋市	新山東	(36)SK018A	炉				1				3
			SI-005	炉	4			2	1			曾利式系は変な土器
			SI-011	炉a	3		1					
千葉県 印旛	酒々井町	墨古沢 飯積原山	SI-012	炉	8		3	1				2
			123号住居跡	炉	4							
			409号住居跡	炉4	3		1	1				1
			(78)SI021A・B	炉	2			1	1			
			(78)SX003		2			1				炉跡として報告
千葉県 八千代市	八千代市	八王子台	(78)SX054		3							1 炉跡として報告
			H19-SI007	炉	5							3
			H18-SI010	炉A	5							2
千葉県 市原市	市原市	有吉南貝塚	H18-SI011	炉	4			1				4
			206	炉A	4							1
			375	炉	3			1				
			SB013	A炉	2		3					
			SB013	B炉	1		1					1
		有吉北貝塚	SB056	炉	2			1				
			SB099	炉	5		2					
			草刈貝塚	108墓穴住居跡	炉	3			1			
			171A号址	炉	2			1				1
			187C号址	炉	4							1
千葉県 市原市	市原市	草刈遺跡(B区)	245A号址	炉	4							
			217A号址	炉	3							2
			716号址	炉	3							1
			A130号住居跡	炉	1			1				3
			C037号住居跡	炉	1			1	1			1
		中調ヶ広	SI020	炉	9				1			2
			SI029	炉A	1	1			2			
			SI031	A炉	8							7
			SI031	B炉	7							5
			SI023	炉	3			3				
千葉県 東金市	東金市	養老寺										

土器片囲い炉に使われた土器

(分類)	個体数	%
加曾利E3前半	128	77.1%
加曾利E古	1	0.6%
加曾利E細別不明	11	6.6%
連弧文系	17	10.2%
曾利式系	9	5.4%
計	166	99.9%

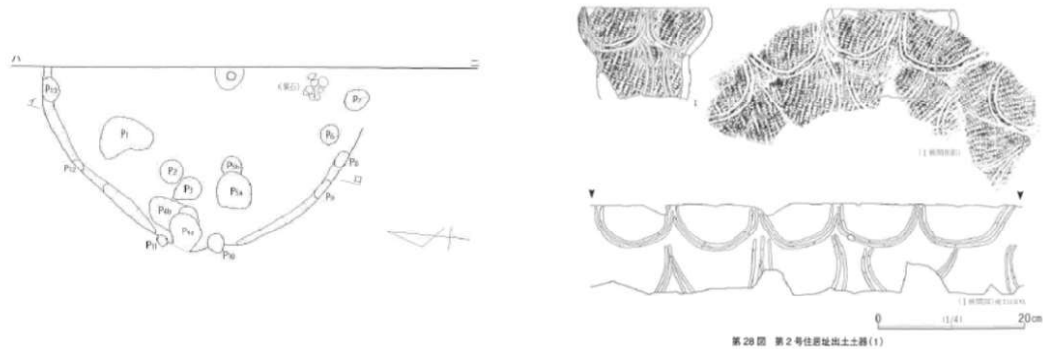
土器片囲い炉・個体数



(4) 組成について

- ・中峠遺跡調査資料からみた組成

下総考古学研究会 2014
「千葉県松戸市中峠遺跡第6次調査報告」
下総考古学23

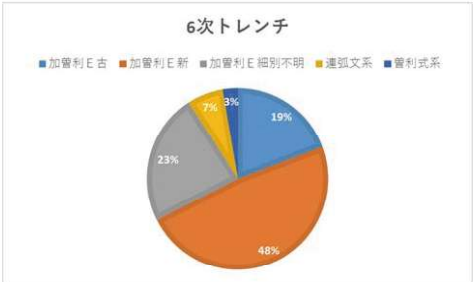
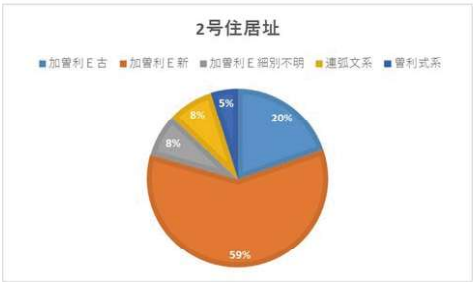


中峠遺跡6次調査地点 第2号住居址

・中峠遺跡調査資料からみた組成

下総考古学研究会 2014
「千葉県松戸市中峠遺跡第6次調査報告」
下総考古学23

(分類)	2号住		6次トレンチ	
	点数	%	点数	%
加曾利 E 古	41	19.7%	89	19.3%
加曾利 E 新	124	59.6%	223	48.3%
加曾利 E 細別不明	16	7.7%	108	23.4%
連弧文系	17	8.2%	30	6.5%
曾利式系	10	4.8%	12	2.6%
計	208	100%	462	100%



(5) 胎土分析の結果について

・「研究紀要 26」で実施した胎土分析

香取市「旧小見川町」内蔵大宮内遺跡 (1-5)



鎌子市黒島台遺跡 (6-13)



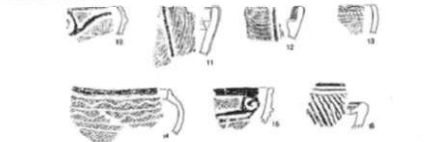
芝山町黒台白遺跡 (14-20)



西武池袋線沿線 (埼玉県) 遺跡 (1-9)



千葉市東区北沢 (10-16)



千葉市東区 (千葉県) 遺跡 (17-24)



図85 胎土分析資料(2)

3. 房総における曾利式系「斜行文・重弧文土器とその類例」の意義

○南西関東よりも、盛行する時期が確実に遅れる。

同様の顔付きをした土器が、時間的な同時性を示さない可能性がある。

櫛原功一 2019 「多摩地域の曾利式（系）土器」 『考古学の地平Ⅱ
－縄文時代中期の土器論と生業研究の新視点－』六一書房

新地平11c期
(曾利Ⅲa期)

=加曾利E2式

(櫛原2019) 第3図下

多摩ニュータウンNo.72遺跡94号住

TN72-94住・17、22、23など

「房総の曾利式系斜行文・重弧文とその類例」と
類似した土器が、すでに存在する。

櫛原功一 2019
「多摩地域の曾利式（系）土器」
『考古学の地平Ⅱ－縄文時代中期
の土器論と生業研究の新視点－』
六一書房

新地平12a期
(曾利IIIb期)

=加曾利E 3 式前半
(古手)

(櫛原2019) 第4図上

多摩ニュータウンNo.72遺跡66号住

TN72-66住・6、7、8
「房総の曾利式系斜行文・重弧文とその類例」と
類似した土器が存在する。

櫛原功一 2019
「多摩地域の曾利式(系)土器」
『考古学の地平Ⅱ－縄文時代中期の
土器論と生業研究の新視点－』六一書房

新地平12b新期
(曾利IVb期)

=加曾利E 3 式前半
(新手)

(櫛原2019) 第4図中

忠生15号住

「房総の曾利式系斜行文・重弧文とそ
の類例」と類似した土器は存在しない。

新地平12c期
(曾利IVa期)

=加曾利E 3 式後半

(櫛原2019) 第4図中下

多摩ニュータウンNo.72-94号住

「房総の曾利式系斜行文・重弧文とそ
の類例」と類似した土器は存在しない。

櫛原功一 2019
「多摩地域の曾利式
(系)土器」『考古学の
地平Ⅱ－縄文時代中期の
土器論と生業研究の新視
点－』六一書房

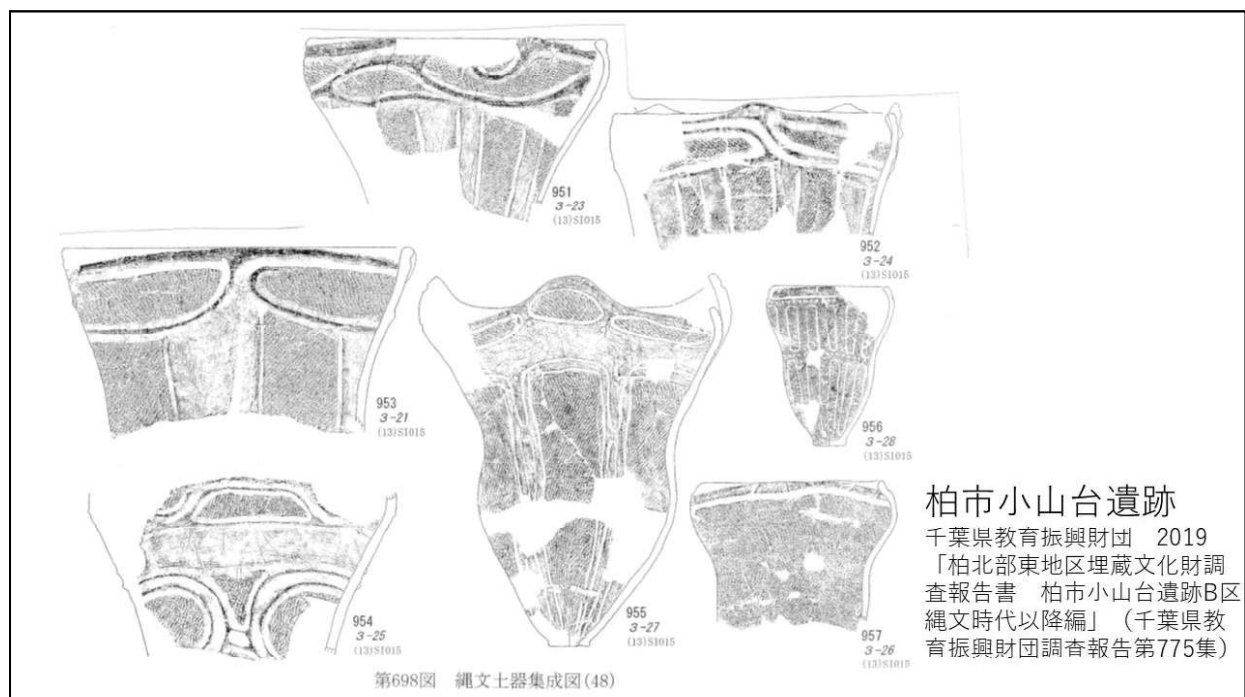
3. 房総における曽利式系「斜行文・重弧文土器とその類例」の意義

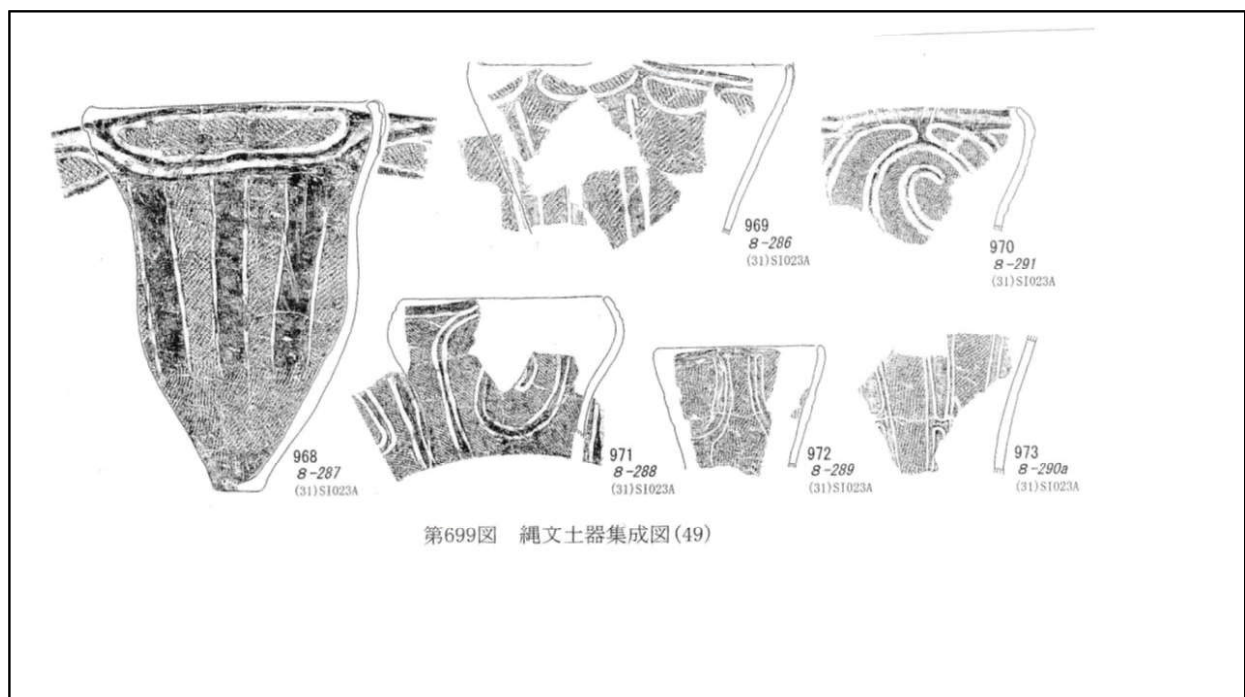
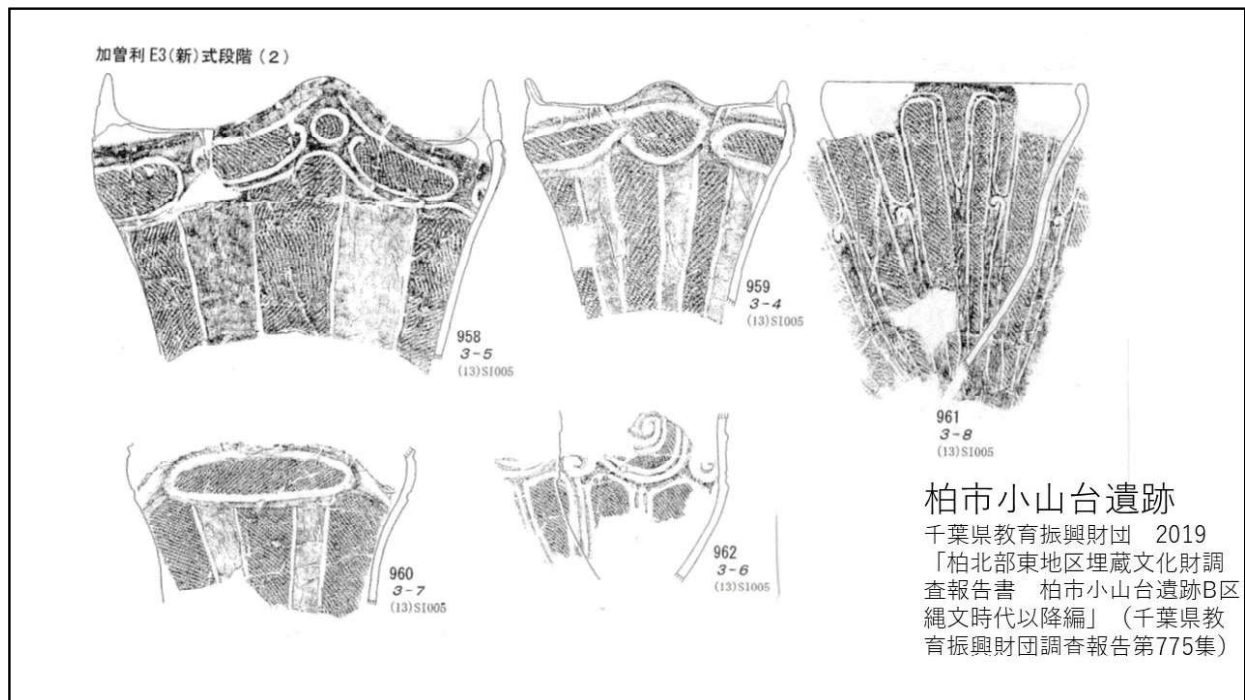
○房総においては「加曽利E 3式前半」の枠組みを保証するもの。

加曽利E 3式前半と「加曽利EⅢ式」の画期を確実にするもの。

西川博孝が柏市小山台遺跡で「加曽利E 3（新）式段階」として抽出した出土状況は、示唆的である。

西川博孝 2019 「第5章総括第2節縄文土器」『柏北部東地区埋蔵文化財調査報告書 柏市小山台遺跡B区縄文時代以降編』千葉県教育振興財団





3. 房総における曽利式系「斜行文・重弧文土器とその類例」の意義

○加曽利E 3 式前半の細別の可能性について

(市原市中潤ヶ広遺跡での分析事例から)

大内千年 2006「第6章第1節縄文時代」『潤井戸地区埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－市原市中潤ヶ広遺跡（上層）－』 千葉県教育振興財団

曽利式系斜行文・重弧文とその類例について、
加曽利E 3 式前半の細別に資するような形で
変遷をあとづけることは、現状では困難である



大内②⑥